

令和8年1月

教育委員会定例會議案等

新潟市教育委員会

令和8年1月教育委員会定例会議事日程

新潟市教育委員会

日 時	令和8年1月27日（火） 午前10時30分 開会
場 所	新潟市役所ふるまち庁舎4階 教育会議室1
日 程	<p>第1 会議録署名委員の指名</p> <p>第2 報告</p> <ul style="list-style-type: none">・新潟市教育振興基本計画の進行管理（評価）について・・・・・・1・令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の考察結果及び今後の取組について・・・・・・・・・・・・・・・・4・和解及び損害賠償額の決定に係る専決処分について・・・・当日配付・和解及び損害賠償額の決定に係る専決処分について・・・・当日配付・令和8年度当初予算について・・・・・・・・・・・・26 <p>第3 次回日程 2月定例会 令和8年2月12日（木） 午前10時30分</p> <p>第4 閉会</p>

報 告

新潟市教育振興基本計画の進行管理(評価)について

新潟市教育振興基本計画推進体制

1 進行管理(評価)の基本理念

- ・進行管理(評価)は、新潟市教育振興基本計画における新潟市の教育が目指す人間像を実現するために実施する。
- ・各基本施策に設定されている指標の評価を通して、施策・事業の着実な実行や改善につながるよう努める。
- ・評価方法は可能な限り簡素化し、「評価のための評価」とならないようにする。

2 方針

- 「指標を目標とし、目標管理を行う」
- ・アンケートや調査等の数値を根拠として評価を行う。
 - ・成果や課題を分析し、事業等の改善にいかす(PDCAサイクル)。

3 スケジュール

時期	内容	概要
11~12月	新潟市教育振興基本計画推進本部	基本施策に関する事業進捗状況の中間報告及び事務局内の共有を行う。
3~4月	最終評価	事務局内での最終評価作業。
5月	新潟市教育振興基本計画推進本部	最終評価における成果や課題を事務局内で共有し、推進委員会への報告資料を作成する。
6月	新潟市教育振興基本計画推進委員会	最終評価を推進委員会に報告し、助言・意見等を伺う。
7~8月	新潟市教育委員会定例会	最終評価を「教育委員会の点検と評価」として教育委員会に諮り、助言・意見等を伺う。
9月	新潟市議会 9月定例会	最終評価を「教育委員会の点検と評価」として文教経済常任委員会において報告する。

4 最終評価の具体的内容

①施策指標、取組指標の評価

施策指標、取組指標について総合計画2030の評価基準に準拠し「A・B・C」の3段階で評価する。

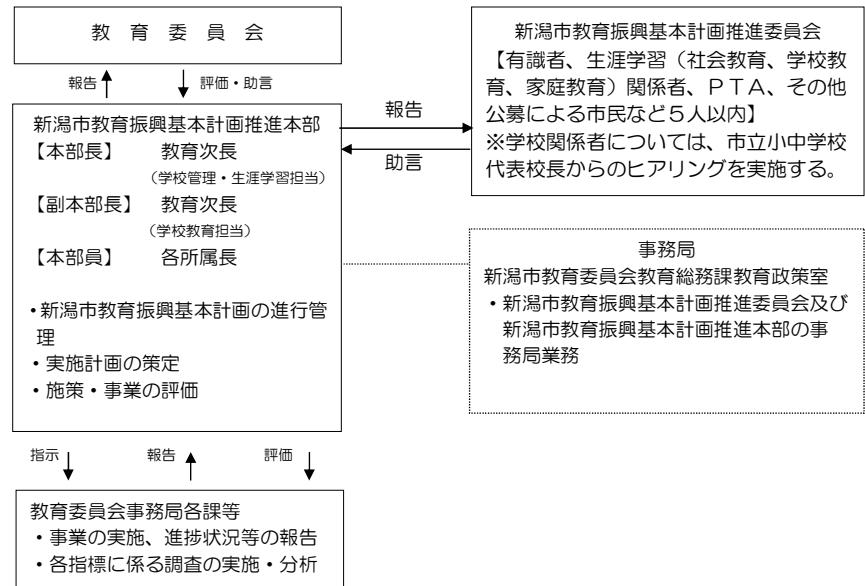
評価	策定時の数値(現状値)	当該年度の目標値
A	達成	達成
B	達成	未達成
	未達成	達成
C	未達成	未達成

②基本施策の評価

①で評価したものを基に、新潟市教育ビジョン(平成18年度～令和6年度)における評価基準を参考に、「とても順調」「順調」「おおむね順調」「やや低調」「低調」の5段階で、総合的に基本施策ごとに評価する。

とても順調：指標各項目のAの割合	100%
順調：指標各項目のA、Bの割合	90%以上 100%未満
おおむね順調：指標各項目のA、Bの割合	70%以上 90%未満
やや低調：指標各項目のA、Bの割合	60%以上 70%未満
低調：指標各項目のA、Bの割合	60%未満

新潟市教育振興基本計画推進体制を次のとおりとする。



1 新潟市教育振興基本計画推進本部の所掌事務

- (1) 新潟市教育振興基本計画の施策・事業の評価に関すること。
- (2) 新潟市教育振興基本計画の実施計画の策定に関すること。
- (3) その他新潟市教育振興基本計画の推進に関すること。

2 新潟市教育振興基本計画推進委員会の所掌事務

- (1) 新潟市教育振興基本計画の進捗状況について報告を受け、助言を行うこと。
- (2) 新潟市教育振興基本計画の実施計画について意見を述べること。
- (3) その他新潟市教育振興基本計画の進行管理について助言を行うこと。

施策指標・取組指標一覧

※1 第定期現状値(R4の数値)
 ※2 往来は「家庭教育に関する講座」でのアンケートであったが、今後は「家庭教育に関する講座等」とするため参考値
 ※3 陽年実施のアンケートのため、最終目標値はR9の数値
 ◆ 市長部局の関連指標(最終目標値は総合計画2030におけるR12の目標値)

基本方針1 生涯を通じて学び、夢や希望に向かって挑戦し続ける人づくり

基本施策1 生涯学び続け、学びをいかし活躍できる機会の充実と支援

施策指標	策定期現状値(R5)			最終目標値 (施策指標:R14 取組指標:R10)
	生涯学習活動で身に付けた知識や技能を、地域や学校、ボランティア活動に活かしている市民の割合	16.1%	22.0%	
取組指標	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していると肯定的に回答した児童生徒の割合(※1)	小6 中3 76.7% 71.7%	小6 中3 80.0% 75.0%	
	生涯学習ボランティアバンク登録件数	126件	145件	
	「前年度までに、授業において、児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」に肯定的に回答した学校の割合	小学校 中学校 89.7% 84.5%	小学校 中学校 92.0% 87.0%	
	地域のこと(自然・歴史・産業など)にふれたり、調べたりする学習は好きと回答した児童生徒の割合	小6 中3 77.8% 72.3%	小6 中3 79.5% 74.0%	
	新潟市立図書館に利用登録している市民の割合	14.2%	14.5%	

基本施策2 確かな学力の育成

施策指標	策定期現状値			現状値 なし 小6 中3 80.0%
	学ぶことが楽しいと回答した児童生徒の割合	現状値 なし 小6 中3 85.5% 88.1%	小6 中3 91.0%	
取組指標	学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、自分で判断して行動したりしていると回答した児童生徒の割合	小6 中3 83.6% 81.2%	小6 中3 86.0%	
	「前年度までに、授業において、児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」に肯定的に回答した学校の割合	小学校 中学校 89.7% 84.5%	小学校 中学校 92.0% 87.0%	
	「市教委が情報提供する授業改善のポイントや好取組を踏まえ、自校において授業を改善しているか」に肯定的に回答した学校の割合	現状値 なし	100.0%	
	外部と連携した学習・授業支援事業は、「児童生徒の基礎・基本の定着に向けた支援体制の整備・充実に効果的であった」と肯定的に回答した学校の割合	現状値 なし	90.0%	
	「アグリ・スタディ・プログラムを体験し、本市の農業への誇りが醸成されたか」に肯定的に回答した小中学生の割合	95.3%	95.0%	
	中学校3年生のCEFR A1レベル(英検3級)以上の英語力を有する生徒の割合	36.2%	50.0%	

基本施策3 キャリア教育の推進

施策指標	策定期現状値			現状値 なし 小6 中3 80.7% 64.7%
	将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	小6 中3 80.7% 64.7%	小6 中3 88.0% 76.0%	
取組指標	総合的な学習(探究)の時間の中で、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童生徒の割合	小6 中3 80.8% 87.4%	小6 中3 85.0% 90.0%	
	将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	小6 中3 80.7% 64.7%	小6 中3 86.0% 74.0%	
	地域のこと(自然・歴史・産業など)にふれたり、調べたりする学習は好きと回答した児童生徒の割合	小6 中3 77.8% 72.3%	小6 中3 79.5% 74.0%	
	市立高等学校等における地域連携教育活動に参加した生徒数(延べ人数)	2,217人	前年度 以上	
	総合的な学習(探究)の時間の中で、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童生徒の割合	小6 中3 80.8% 87.4%	小6 中3 83.0% 89.0%	

基本施策4 体力づくり・健康づくり・食育の推進

施策指標	策定期現状値			現状値 なし 小6 中2 90.4% 81.9%
	「運動が好きですか」に対して肯定的に回答した児童生徒の割合	小5 中2 90.4% 81.9%	小5 中2 92.0% 88.0%	
取組指標	健康にこだわるために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていると回答した児童生徒の割合	現状値 なし	小6 中3 90.0% 以上	
	◆自分が健康だと思う市民の割合	75.7%	中間値を 上回る	
	1週間の総運動時間(体育授業除く)が60分未満の児童生徒の割合の減少	小5男 小5女 中1男 中2女 10.4% 18.2% 10.0% 23.8%	前年割合 より減少	
	「朝食を食べています」「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合	小6 中3 89.3% 86.2%	小6 中3 100.0%	
	「学校給食の時間が、児童生徒にとって安心して食事ができる時間となっているか」の問い合わせに肯定的に回答した学校の割合	現状値 なし	100.0%	

施策指標・取組指標一覧

※1 第定期現状値はR4の数値
 ※2 往來は「家庭教育に関する講座」でのアンケートであったが、今後は「家庭教育に関する講座等」とするため参考値
 ※3 陽年実施のアンケートのため、最終目標値はR9の数値
 ◆ 市長部局の関連指標(最終目標値は総合計画2030におけるR12の目標値)

基本方針2 豊かな人間性と高い志をもち、協働しながら新たな価値を創造する人づくり

基本施策5 人権を尊重し、多様性を認め合う心の育成

施策指標	自らや周りの人たちの個性や違いを認めたり、大切にしたりしながら生活していると回答した児童生徒の割合			現状値 なし 小6 中3 84.0%
	いいじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合	小6 中3 96.7% 96.1%	小6 中3 100.0%	
取組指標	◆自分が、周りの人の人権を意識しながら、生活している市民の割合	65.9%	70.0%	
	学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、自分で判断して行動したりしていると回答した児童生徒の割合	小学校 中学校 85.5% 88.1%	小学校 中学校 87.5% 90.0%	
	いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合	小学校 中学校 85.9% 83.7%	小学校 中学校 89.0% 86.5%	
	いじめ解消率	77.3%	前年度 以上	

基本施策6 誰一人取り残さない、一人一人の可能性を引き出す教育の推進

施策指標	学校生活は楽しいと肯定的に回答した児童生徒の割合			小6 中3 88.6% 90.8%
	特別な配慮を必要とする児童生徒に対する適切な支援や環境が整っていると回答した学校の割合	現状値 なし	小6 中3 92.0%	
取組指標	学校内外の機関等から相談・指導等を受けた、または受けている不登校児童生徒の割合	小学校 中学校 94.9% 86.1%	小学校 中学校 100.0%	
	日本語指導を受けた幼児児童生徒の日本語能力について、向上したと回答した学校の割合	82.4%	95.0%	
	公立夜間中学の開校に向けた基本構想・基本計画等の策定や教育課程の編成及び開校後の運営	現状値 なし	開校に向けた 準備及び開校	
	学校内外の機関等から相談・指導等を受けた、または受けている不登校児童生徒の割合	小学校 中学校 94.9% 86.1%	小学校 中学校 100.0%	
	配慮を要する児童生徒等への個別の教育支援計画作成率	69.5%	95.0%	
	退職教員を配置したサポート実施校への事後アンケートで、児童の支援や教職員の働き方改革に寄与したと回答した学校の割合	現状値 なし	90.0%	
	発達障がい通級指導教室を利用する児童生徒の中で、自校で通級による指導を受けることのできる児童生徒の割合(巡回指導を含む)	35.0%	80.0%	

基本施策7 創造性に富み、世界とともに生きる力の育成

施策指標	外国人の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思うと回答した児童生徒の割合			小6 中3 76.0% 67.2%
	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国人の人にもっと知ってもらいたいと思う児童生徒の割合	小6 中3 82.0% 63.9%	小6 中3 86.0% 68.0%	
取組指標	◆新潟市は国際的なまちだと思う市民の割合	18.2%	50.0%	
	新潟市サマーベンチ(イングリッシュ・ディ、高志サマーセミナー、万代高校BASS)に参加した児童生徒の満足度	98.0%	100.0%	
	「英語担当教員とALTとの間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができているか」に肯定的に回答した中学校の割合	96.6%	前年度 以上	
	中学校3年生のCEFR A1レベル(英検3級)以上の英語力を有する生徒の割合	36.2%	50.0%	

基本施策8 いのちの教育・心の教育の推進

施策指標	自分にはよいところがあると回答した児童生徒の割合			小6 中3 78.7% 84.0%
	困りごとや不安があるとき、いつでも相談できる人がいると回答した児童生徒の割合	現状値 なし	小6 中3 90.0%	
取組指標	自分や周りの人たちの個性や違いを認めたり、大切にしたりしながら生活していると回答した児童生徒の割合	現状値 なし	小6 中3 84.0%	
	「道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」に肯定的に回答した児童生徒の割合	小6 中3 90.1% 90.8%	小6 中3 92.0%	

施策指標、取組指標一覧

※1 第定期現状値はR4の数値
 ※2 往來は「家庭教育に関する講座」でのアンケートであったが、今後は「家庭教育に関する講座等」とするため参考値
 ※3 陽年実施のアンケートのため、最終目標値はR9の数値
 ◆ 市長部局の関連指標(最終目標値は総合計画2030におけるR12の目標値)

	策定期現状値 (R5)	最終目標値 (施策指標:R14 取組指標:R10)
--	----------------	---------------------------------

基本方針III 地域との絆を深め、郷土に誇りと愛着をもって社会に貢献する人づくり

基本施策9 地域、学校、民間企業、家庭の連携・協働の推進

施策指標	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答した児童生徒の割合(※1)	小6 中3	59.3% 46.9%	小6 中3	70.0% 58.0%
	地域や学校で先生以外の大人からほめられたり、認められたりして、うれしいと感じることがあると回答した児童生徒の割合	小6 中3	82.6% 80.7%	小6 中3	90.0%
	学校と地域が協働して「地域とともにある学校づくり」をしていると回答した保護者の割合		現状値 なし		90.0%
取組指標	コミュニティ・スクールと地域と学校パートナーシップ事業の一体的推進が実現していると回答した学校運営協議会の割合		現状値 なし		100.0%
	こどもふれあいスクールのねらいを意識した運営をしていると回答した運営主任の割合		現状値 なし		100.0%
	地域や学校で先生以外の大人からほめられたり、認められたりして、うれしいと感じることがあると回答した児童生徒の割合	中3	80.7%	中3	85.0%
	こども見守り隊の参加者数の割合		9.0%		前年度 以上
	地域のこと(自然・歴史・産業など)にふれたり、調べたりする学習は好きと回答した児童生徒の割合	小6 中3	77.8% 72.3%	小6 中3	79.5% 74.0%

基本施策10 郷土の歴史・文化に親しむ教育の推進

施策指標	自分が住んでいるまち(地域)が好きですと回答した児童生徒の割合		現状値 なし	小6 中3	90.0%
	地域のこと(自然・歴史・産業など)にふれたり、調べたりする学習は好きと回答した児童生徒の割合	小6 中3	77.8% 72.3%	小6 中3	82.0% 76.0%
	◆新潟市に住み続けたい市民の割合		88.9%		90.0%
取組指標	◆新潟市の農水産物などに対して誇りや愛着を持つ市民の割合		88.5%		90.0%
	地域のこと(自然・歴史・産業など)にふれたり、調べたりする学習は好きと回答した児童生徒の割合	小6 中3	77.8% 72.3%	小6 中3	79.5% 74.0%
	アグリ・スタディ・プログラムを体験し、本市の農業への誇りが醸成された小中学生の割合		95.3%		95.0%

基本施策11 家庭教育の充実と子育て支援の充実

施策指標	家庭教育に関する講座等で「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合(※2)		91.2%		100.0%
	家庭で読み聞かせをしていると回答した保護者の割合		78.8%		90.0%
	こどもの頑張りを認める姿勢を大切にしながら、こどものよいところを見つけて、ほめていると回答した保護者の割合		現状値 なし		100.0%
	◆新潟市は子育てしやすいまちだと思う保護者の割合		70.0%		80.0%
取組指標	子育て学習出前講座保護者向けアンケートで講座の満足度が「大変良かった」「良かった」の割合		83.5%		86.0%
	「こどもが通っている園(幼稚園、保育園、こども園)の教育(保育)に満足している」と肯定的に回答した保護者の割合		現状値 なし		80.0%
	家庭で読み聞かせをしていると回答した保護者の割合(※3)		78.8%		88.0%

施策指標、取組指標一覧

※1 第定期現状値はR4の数値
 ※2 往來は「家庭教育に関する講座」でのアンケートであったが、今後は「家庭教育に関する講座等」とするため参考値
 ※3 陽年実施のアンケートのため、最終目標値はR9の数値
 ◆ 市長部局の関連指標(最終目標値は総合計画2030におけるR12の目標値)

	策定期現状値 (R5)	最終目標値 (施策指標:R14 取組指標:R10)
--	----------------	---------------------------------

基本方針IV 多様な学びを支える教育環境の整備・充実

基本施策12 安心・安全で質の高い教育環境の整備・充実

施策指標	学校は安全で、安心して過ごしやすい環境であると回答した児童生徒の割合		現状値 なし		100.0%
	教育を受ける環境(学校以外も含む)が充実していると回答した保護者の割合		現状値 なし		80.0%
	配慮を要する児童児童生徒等への個別の教育支援計画作成率		69.5%		95.0%
取組指標	退職教員を配置したサポート実施校への事後アンケートで、児童の支援や教職員の働き方改革に寄与したと回答した学校の割合		現状値 なし		90.0%
	こども見守り隊の参加者数の割合		9.0%		前年度 以上
	「こどもが通っている園(幼稚園、保育園、こども園)の教育(保育)に満足している」と肯定的に回答した保護者の割合		現状値 なし		80.0%
	公立夜間中学の開校に向けた基本構想・基本計画等の策定や教育課程の編成及び開校後の運営		現状値 なし		開校に向けた準備及び開校
	地域や学校で先生以外の大人からほめられたり、認められたりして、うれしいと感じることがあると回答した生徒の割合	中3	80.7%	中3	85.0%

基本施策13 教育DXの推進とICT環境の整備・充実

施策指標	学校生活において、PC・タブレットなどのICT機器を自ら活用して調べたり、自分の考えをまとめたりしていると回答した児童生徒の割合		現状値 なし	小6 中3	90.0% 以上
	ICTを活用した授業づくりを実践していると回答した教職員の割合		現状値 なし		95.0%
取組指標	学校生活において、PC・タブレットなどのICT機器を自ら活用して調べたり、自分の考えをまとめたりしていると回答した児童生徒の割合	小学校 中学校	90.0% 97.0%	小学校 中学校	92.0% 98.0%
	ICTを活用した授業づくりを実践していると回答した教職員の割合		現状値 なし		前年度 以上

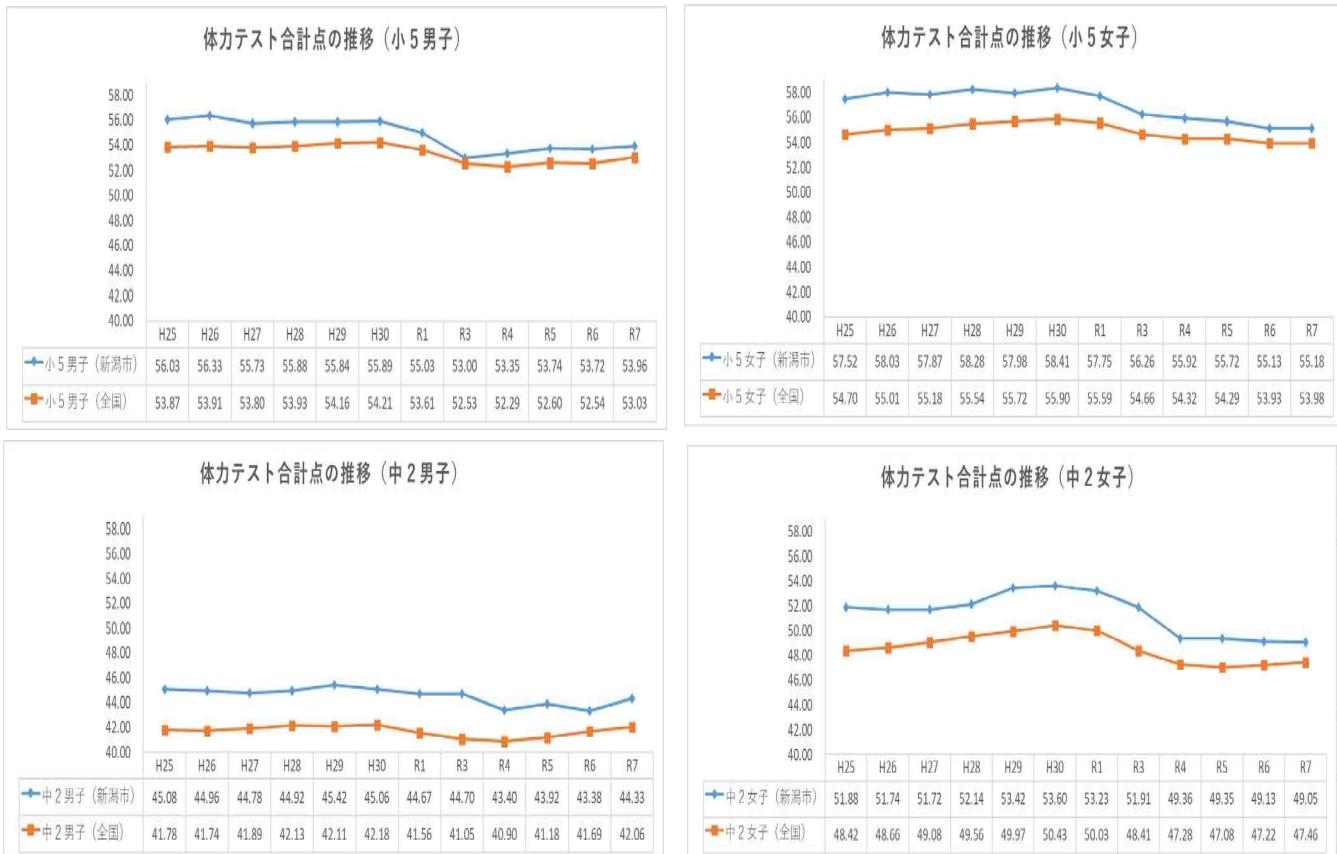
基本施策14 職員・教員の資質・能力の向上と支援体制の充実

施策指標	主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善に取り組んでいると回答した教職員の割合		現状値 なし		100.0%
	充実して仕事に取り組めていると回答した教職員の割合		現状値 なし		85.0%
取組指標	教職員研修の講師として招聘した大学教員の数		37人		47人
	「前年度までに、授業において、児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」に肯定的に回答した学校の割合	小学校 中学校	89.7% 84.5%	小学校 中学校	92.0% 87.0%
	充実して仕事に取り組めていると回答した教職員の割合		現状値 なし		前年度 以上
	各研修講座における参加者の満足度		82.8%		90.0%
	各研修講座アンケートで「今後にいかすことができる」と回答した参加者の割合		89.4%		90.0%

令和 7 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果と考察、 及び今後の取組について

1 調査結果（推移）

（1）体力テストの合計点（図 1）



- 全体的に平成 30 年をピークに低下傾向と言えるが、全国平均を上回っており、政令市ではトップクラスを維持している。
- 新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）収束後は、男子では少しずつ上昇傾向にあり、コロナ前の水準に近づいてきている。
- 女子は、コロナ後横ばいで推移している。

（2）体力テスト 8 項目の経年変化（資料 1）

① 高い項目

- 小学校男女では、6 項目（50m 走、ソフトボール投げ以外）で毎年全国平均を超えている。
- 中学校男女は、毎年ほぼ全種目で全国平均を超えている。
- 中学校では長座体前屈が全国平均と比べて、毎年 3 ポイント前後高い。

② 低い傾向にある項目

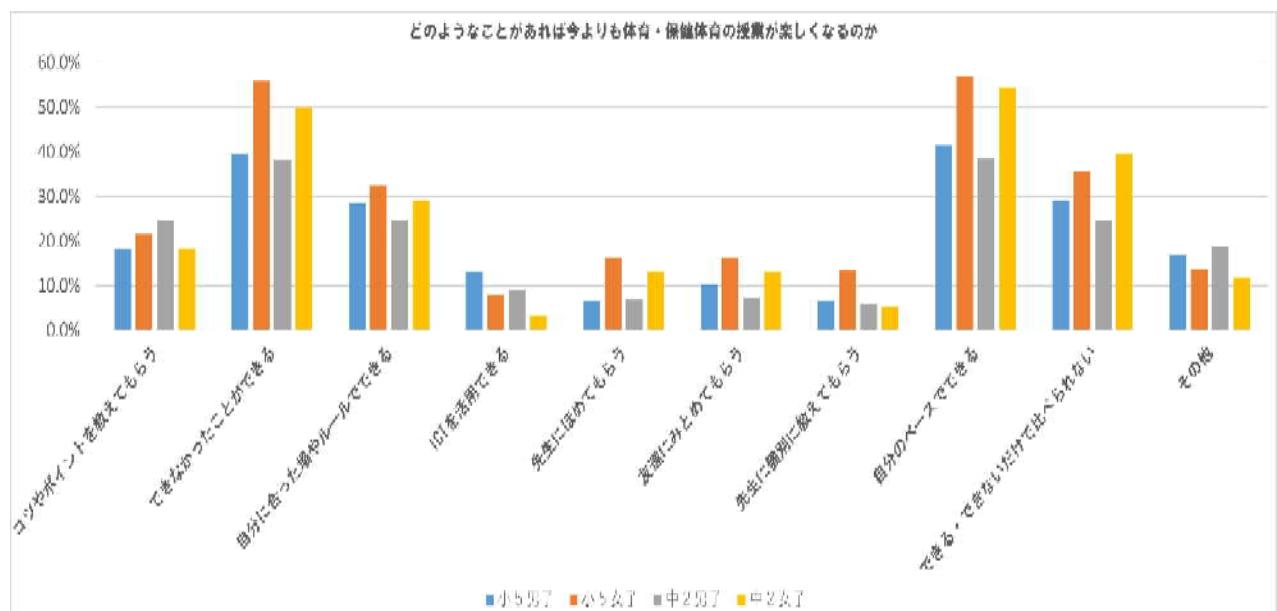
- 小学校男女でソフトボール投げが全国平均を下回ることが多い。特に小学校男子は毎年、全国平均を下回っている。
- 中学校女子は令和 4 年度から反復横跳びが全国平均を下回る傾向にある。

(3) 児童生徒質問紙「体育・保健体育の授業が楽しい」（図2）



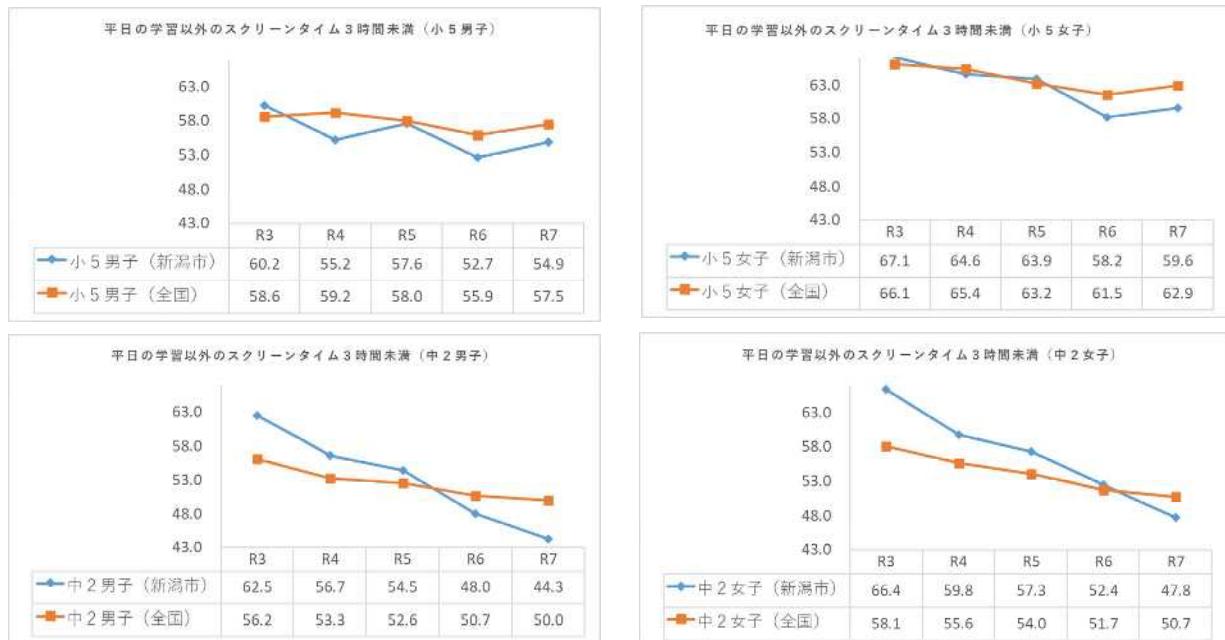
- 令和7年度は、小学校の男女はほぼ全国並み、中学校の男女は全国を若干下回っている。中学校は、令和5年度には大きく落ち込んだが、回復傾向にある。
- 令和元年度から小学校女子を除いて、少しづつ数値は上昇している。
- 小学校女子は、新潟市及び全国で数値が下がっている。
- 中学校女子は、全国との差がやや大きい。

(4) 「どのようなことがあれば今よりも体育の授業が楽しくなるか」（図3）



- 小学校・中学校の男女ともに「自分のペースでできる」が一番多く、次いで「できなかつたことができる」、「できる・できないだけで比べられない」、「自分に合った場やルールでできる」が多い。特に、小学校・中学校ともに女子にその傾向が強い。
- 小学校・中学校の女子は、「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した2人に1人が「自分のペースでできる」「できなかつたことができる」を望んでいる。

(5) 児童生徒質問紙「平日の学習以外のスクリーンタイムが3時間未満」の推移（図4）



- ・小学校・中学校の男女で、全国、新潟市とともに、減少傾向である。
- ・新潟市は令和5年度までは全国との差は大きくはないが、令和6年度から差が広まりつつある。
- ・1週間の総運動時間が短い児童生徒ほど、スクリーンタイムが長い傾向がある。

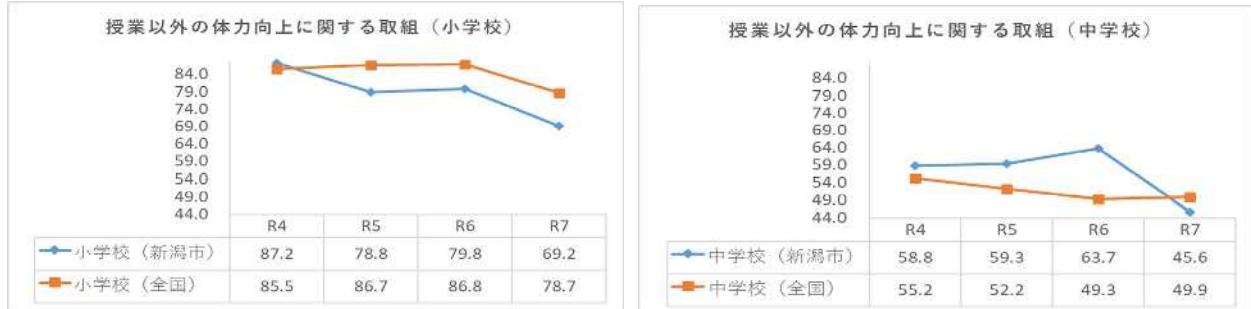
(6) 児童生徒質問紙「運動やスポーツをすることが好き」の推移（図5）



- ・全国、新潟市ともにコロナを境に減少したが、改善傾向にある。
- ・新潟市は、中学校男子以外は、全国よりも若干上回っている。
- ・小学校、中学校の男子で9割を超える傾向にある。
- ・女子は、小学校と中学校の差が大きい。

- 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒ほど、体力合計点が高く、1週間の総運動時間が長い。また、卒業後も自主的に運動したいと回答している。

(7) 学校質問紙「授業以外の体力向上に関する取組」の推移（図6）



- 小学校は令和4年度から大きく減少しているといえる。
- 中学校は令和4年度から全国を上回っていたが、令和6年度から一気に減少した。

2 考察

(1) 体力合計点について

本市の合計点が高い要因を明確に述べることはできないが、下記のような授業での工夫が要因として考えられる。

- ① 本市では、年度当初に各学校で作成する「体力向上ジャンプアップ（資料3）」により、各学校が自校の実態に合わせて体力向上に取り組んでいる。そのため、「調査やデータに基づき、PDCAサイクルを確立している（資料2(3)）」につながったと言える。
- ② 各学校の取組の具体としては、「話合い活動」「ICTの活用」「助け合いや役割分担」「主体的な態度を育成する授業改善」（資料2(3)）である。特に、「ICTの活用」が全国よりも大きく上回っていることから、他の取組に活用し、結果につながっていると言える。児童生徒の回答からも、「目標を意識した学習」や「教え合う活動」、「ICTの利活用」などの工夫（資料2(2)）が、「できる・わかる」といった実感につながっていることが分かる。

(2) 体力テストの各項目について

- ① 小学校で「ソフトボール投げ」が全国平均を下回っているのは、下記の理由で投げる経験が不足していることが要因として考えられる。
 - ・ 安全面に配慮し、休み時間に体育館でのボール使用を禁止している学校が多い。
 - ・ 教職員の働き方改革による校時表の変更に伴う休み時間等の短縮。
 - ・ 教職員の勤務時間や休憩時間の適正化に伴う業間体育の減少。

- ② 中学校で「長座体前屈」が全国平均を大きく上回っているのは、以下のことが可能性として考えられる。
- ・ 新潟市は他の政令市と比較して身長が高い（特に男子）ため。
 - ・ 中学校は、授業や部活動等で専門的なストレッチなどを効果的に行っているのではないか。

(3) 課題

① 「授業が楽しい」「運動やスポーツすることが好き」について

- ・ 学校は授業改善に取り組んでいると言える。一方で、一律の目標や課題、内容、方法の提示には改善の余地がある。他人との比較や同じゴールに向かわせる授業から、児童生徒が自ら課題や学習内容、学習方法を自己決定しながらも、仲間と協働して学習を進める「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をさらに推進する必要がある。
- ・ 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒ほど、体力合計点が高いことから、運動やスポーツに対する愛好的な態度を育てることが大切である。
- ・ 授業以外での取組については、小学校での働き方改革、中学校での部活動の地域展開に係り、改善することは困難な状況である。

② 平日の学習以外のスクリーンタイムについて

- ・ 学習用端末の配布だけでなく、児童生徒のスマートフォンの所持率増加なども要因として考えられる。家庭での過ごし方が大きく影響していることから、学校と家庭とが連携して取り組む必要がある。

3 今後の取組について

(1) 授業改善

- ① 児童生徒が自ら課題や学習内容、学習方法を自己決定しながら、自分のペースで学習に取り組める授業改善の必要性や実践例を周知することにより、「個別最適な学び」の視点による授業改善を推進する。その際、ICT 活用の可能性についても積極的に取り上げる。
- ② 児童生徒が、目標や内容、方法、成長を自覚できるようなツールを市教委が提示する。

(2) 授業以外の取組

- ① 授業以外の体力向上の取組は、スポーツ庁から出されている取組事例集（資料4）を活用しながら取り組むことを各学校に促す。
- ② 部活動の地域展開「中学生のための地域クラブ活動」のさらなる推進を図る。このことが、小学生の運動スポーツ活動の環境整備にもつながる。
- ③ 児童生徒がプロ選手への憧れを持ったり、体育の授業で扱わない種目も含め、興味関心を高めたりするために、スポーツ庁で行っている「アスリート派遣事業」について一層周知を図る。

(3) スクリーンタイム

家庭と連携して取り組むことが大切であるが、市教委としての取組が必要である。教育課程班や生徒指導班で、研究を進めていく。取組をする際には、他機関との連携を視野に入れる。

資料1 小学5年男子経年変化

	体力合計点	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立幅跳び(cm)	ソフトボール投げ(m)
	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均
H 2 5	56.03	53.87	17.19	16.63	20.47	19.54	34.21	32.73	44.27
H 2 6	56.33	53.91	17.33	16.55	20.54	19.56	34.57	32.87	44.60
H 2 7	55.73	53.80	16.90	16.45	20.44	19.58	34.86	33.05	44.06
H 2 8	55.88	53.93	17.03	16.47	20.50	19.67	34.72	32.88	44.68
H 2 9	55.84	54.16	17.00	16.51	20.78	19.92	34.07	33.16	44.41
H 3 0	55.98	54.21	16.97	16.54	20.71	19.94	34.77	33.31	44.78
R 1	55.08	53.61	16.80	16.37	20.66	19.80	34.25	33.24	43.81
R 3	53.00	52.53	16.36	16.22	18.98	18.89	34.22	33.49	42.05
R 4	53.35	52.29	16.69	16.21	18.89	18.86	34.65	33.80	42.62
R 5	53.74	52.60	16.56	16.13	19.27	19.00	34.99	33.99	42.76
R 6	53.72	52.54	16.40	16.02	19.79	19.19	34.50	33.79	42.91
R 7	53.96	53.03	16.37	15.97	19.81	19.45	33.92	33.88	42.85

* 新潟市平均色なしセルは、全国平均を下回っている

小学5年女子経年変化

	体力合計点	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立幅跳び(cm)	ソフトボール投げ(m)
	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均
H 2 5	57.52	54.70	16.85	16.14	19.08	18.06	38.09	36.87	42.13
H 2 6	58.03	55.01	16.92	16.09	19.34	18.26	39.41	37.22	42.55
H 2 7	57.87	55.18	16.53	16.05	19.44	18.42	39.55	37.44	42.42
H 2 8	58.28	55.54	16.72	16.13	19.62	18.60	39.07	37.22	43.08
H 2 9	57.98	55.72	16.62	16.12	19.64	18.80	38.91	37.44	42.71
H 3 0	58.41	55.90	16.62	16.14	19.82	18.96	39.57	37.63	43.15
R 1	57.75	55.59	16.40	16.09	19.79	18.95	39.16	37.62	42.66
R 3	56.26	54.66	16.42	16.09	18.50	18.07	38.99	37.92	41.26
R 4	55.92	54.32	16.49	16.10	18.20	17.97	39.07	38.20	41.42
R 5	55.72	54.29	16.42	16.02	18.23	18.05	39.26	38.47	41.13
R 6	55.13	53.93	16.14	15.78	18.44	18.16	38.83	38.21	40.74
R 7	55.18	53.98	16.12	15.61	18.55	18.36	38.98	38.17	40.56

* 新潟市平均色なしセルは、全国平均を下回っている

中学 2 年男子経年変化

* 新潟市平均色なしセルは、全国平均を下回っている

	体力合計点	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立幅跳び(cm)	ハンドボール投げ(m)
	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均
H 2 5	45.08	41.78	30.59	29.21	29.44	27.58	46.38	43.11	52.62
H 2 6	44.96	41.74	29.83	29.00	28.98	27.45	45.53	42.92	52.43
H 2 7	44.78	41.89	29.67	28.93	28.25	27.43	47.29	43.08	52.55
H 2 8	44.92	42.13	29.66	28.91	28.46	27.46	46.66	43.06	52.89
H 2 9	45.42	42.11	29.56	28.89	28.83	27.45	46.93	43.20	53.32
H 3 0	45.06	42.18	27.89	28.83	28.19	27.25	46.64	43.35	53.01
R 1	44.67	41.56	29.42	28.64	28.24	26.85	47.83	43.43	51.97
R 3	44.70	41.05	29.50	28.78	27.51	25.89	47.45	43.58	52.13
R 4	43.40	40.90	29.82	28.95	27.10	25.64	47.39	43.76	50.66
R 5	43.92	41.18	29.78	28.98	26.98	25.71	47.68	44.04	51.26
R 6	43.38	41.69	29.41	28.91	26.78	25.82	47.48	44.32	51.03
R 7	44.33	42.06	29.63	28.91	27.23	25.99	48.85	44.98	51.77

中学 2 年女子経年変化

* 新潟市平均色なしセルは、全国平均を下回っている

	体力合計点	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横跳び(点)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立幅跳び(cm)	ハンドボール投げ(m)
	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均	全国平均	新潟市平均
H 2 5	51.88	48.42	24.39	23.76	24.42	23.03	49.00	45.12	46.55
H 2 6	51.74	48.66	24.18	23.70	24.63	23.07	48.89	45.23	46.71
H 2 7	51.72	49.08	24.14	23.68	24.41	23.26	49.57	45.53	46.73
H 2 8	52.14	49.56	24.21	23.75	24.54	23.48	48.48	45.46	47.41
H 2 9	53.42	49.97	24.37	23.82	25.19	23.73	50.15	45.86	47.96
H 3 0	53.60	50.43	23.18	23.83	25.39	23.77	49.98	46.19	48.26
R 1	53.23	50.03	24.19	23.74	25.81	23.58	50.39	46.29	47.92
R 3	51.91	48.41	24.05	23.38	24.17	22.22	50.09	46.20	47.02
R 4	49.36	47.28	23.44	23.17	23.02	21.58	49.14	46.05	45.60
R 5	49.35	47.08	23.62	23.12	22.81	21.53	49.91	46.26	45.55
R 6	49.13	47.22	23.48	23.14	22.64	21.47	49.98	46.44	45.51
R 7	49.05	47.46	23.38	23.12	22.78	21.62	50.18	46.97	45.61

資料2

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

1 調査の目的

児童生徒の体力の状況を把握・分析することと、その改善を図る。

2 調査の対象となる児童生徒

国・公・私立学校の以下の学年を原則として、全児童生徒を対象

- (1) 小学校調査 小学校、特別支援学校小学部 第5学年
(2) 中学校調査 中学校、中等教育学校、特別支援学校中学部 第2学年

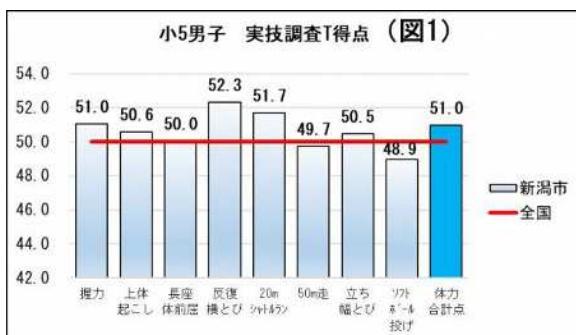
3 調査事項

実技に関する調査、質問紙調査（運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査）

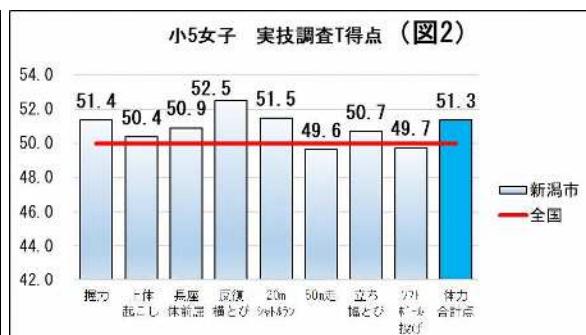
4 令和7年度新潟市調査結果概要

(1) 実技

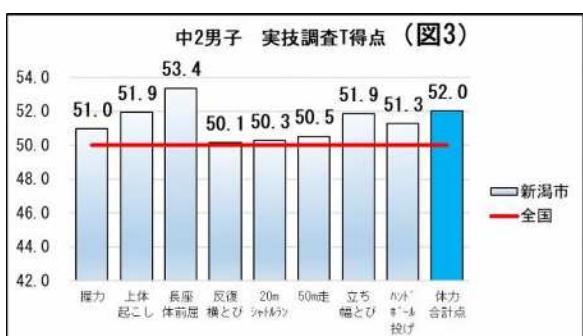
①T得点



〔政令指定都市別〕 全国2位



〔政令指定都市別〕 全国1位



〔政令指定都市別〕 全国1位



〔政令指定都市別〕 全国2位

※中学校2年生では、シャトルランを持久走に置き換えて実施してもよいこととなっているが、本市では体力テストでシャトルランを行っている。

※ボール投げは、小学校はソフトボール、中学校はハンドボールを使用している。

②具体的な数値

表1 実技		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
小5 男子	全国	15.97	19.45	33.88	40.90	47.95	9.46	150.96	21.06
	新潟市	16.37	19.81	33.92	42.85	51.66	9.49	152.12	<u>20.23</u>
小5 女子	全国	15.61	18.36	38.17	38.71	36.87	9.77	142.39	13.10
	新潟市	16.12	18.55	38.98	40.56	39.23	9.81	144.09	<u>12.98</u>
中2 男子	全国	28.91	25.99	44.98	51.63	78.59	8.00	197.50	20.66
	新潟市	29.63	27.23	48.85	51.77	79.32	7.94	203.53	21.44
中2 女子	全国	23.12	21.62	46.97	45.77	50.44	8.97	166.39	12.36
	新潟市	23.38	22.78	50.18	45.61	50.30	8.94	169.04	12.75

※太字は、全国平均を上回った項目。（32項目中26項目）

※下線は、昨年度の記録を上回った項目。（32項目中19項目）

（2）児童・生徒質問紙

※新潟市の回答に特徴があると捉えた項目のみ 赤数字は、全国平均を下回った項目

図5【児童・生徒質問紙】		設問1 運動やスポーツをすることが好き	設問2 体育・保育の授業は楽しい	設問3 目標を意識した学習で、できたり分かたりする	設問4 友達と助け合ったり教えあつたりする学習で、できたり分かたりする	設問5 ICTを使って学習することで、できたり分かたりする	設問6 平日の学習以外のスククリーンタイム※が3時間未満である	設問7 保健で学んだ運動、食事、休養および睡眠に気をつけた生活を送っている
小学校 5年男子	全国	93.4%	94.6%	85.6%	86.8%	62.5%	57.5%	82.0%
	新潟市	94.2%	94.4%	87.7%	88.4%	71.8%	54.9%	82.8%
小学校 5年女子	全国	85.8%	88.1%	82.5%	87.4%	60.1%	62.9%	81.0%
	新潟市	87.9%	87.8%	84.1%	88.8%	69.6%	59.6%	83.8%
中学校 2年男子	全国	91.0%	92.9%	85.8%	88.8%	69.3%	50.0%	78.6%
	新潟市	90.9%	91.6%	86.6%	90.8%	79.5%	44.3%	81.6%
中学校 2年女子	全国	77.2%	84.2%	82.3%	87.3%	63.9%	50.7%	70.2%
	新潟市	78.7%	81.2%	85.7%	87.7%	73.9%	47.8%	73.1%

※スクリーンタイム…平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機器等の画面の視聴時間

（3）学校質問紙

※新潟市の回答に特徴があると捉えた項目のみ 赤数字は、全国平均を下回った項目

図6【学校質問紙】		設問1 調査やデータ等に基づき、PDCAサイクルを確立している	設問2 体育・保育の授業で話し合う活動を全ての学年で行っている	設問3 体育・保育の授業でICT活用している（毎時間～1週間に1回以上）	設問4 体育・保育の授業で児童生徒同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れている	設問5 児童生徒が主体的に体力向上に取り組むために、授業改善に取り組んでいる	設問6 健康三原則の大切さを児童生徒に様々な場面で適宜伝えてい	設問7 体育・保育の授業以外で、児童生徒の体力向上に関する取組を行っている
小学校	全国	88.3%	60.7%	46.7%	98.6%	90.9%	93.7%	78.7%
	新潟市	91.6%	64.5%	70.1%	99.1%	95.3%	96.3%	69.2%
中学校	全国	86.9%	88.9%	60.6%	98.4%	97.1%	97.1%	49.9%
	新潟市	91.2%	91.2%	80.7%	100.0%	100.0%	100.0%	45.6%

資料3 小学校

令和7年度 体力向上ジャンプアップ

1 今年度の自校の体力課題
体力テストの結果（R6）から「50m走（走力）」「立ち幅跳び（瞬発力）」の結果が全国平均を下回る学級が多かった。（10学級中7学級）
2 今年度の体力向上目標（一つにしほる）
体力テストの「立ち幅跳び」の項目で全国平均を上回る学級が1クラス増える
3 体力づくりの取組概要
<p>（1）体力づくりに関する指導や計画の工夫・変更点など (カリキュラムマネジメントの視点を含む)</p> <p>○委員会活動の中で瞬発力向上に結びつくイベントを企画・実施することで、楽しく体力向上に取り組む姿勢を育む。</p> <p>○学年で実施し、効果的だった取組を紹介し合うなど、教職員間での情報交換を行い、運動例を共有し参考にしていく。</p> <p>○子どもたちが自ら運動に取り組みやすい環境をつくるため、場の整備や用具の補充・点検を定期的に行う。</p> <p>○体育授業を進める際に、ゲーム形式やチャレンジ形式の運動に取り組ませることを通して、自身やチームの記録が向上したり、できることが増えたことを実感できるようにしたりすることで、運動の楽しさを味わえるようにする。</p> <p>（2）<u>運動の苦手な児童生徒に対する体育、保健体育の授業の工夫・改善</u></p> <p>○「できる・できない」といった技能を習得する楽しさだけでなく、「する」「みる」「支える」「知る」といった、多様な運動への参加の方法から楽しさを味わえるような体育授業を行っていく。</p> <p>○苦手意識のある児童に寄り添い、粘り強く運動に取り組む様子を称賛したり、少しの伸びでも価値付ける声掛けをしたりと、自信をもって運動に取り組める環境をつくる。</p> <p>○タブレットのスロー再生や遅延再生機能などを活用し、自分の動きを俯瞰的に見ることを通して、動きの課題を明確にして練習に取り組ませていく。</p> <p>○自身の動きの伸びや頑張って取り組んだことなどを、ワークシートを用いて蓄積し、苦手な児童も、挑戦してみたいという動きや、もっと上手にできるようになりたい技といった次のめあてをもち、意欲的に体育の授業に参加できるようにする。</p>

資料3 中学校

令和7年度 体力向上ジャンプアップ

1 今年度の自校の体力課題
運動が好きな生徒とそうでない生徒の運動（体育）への取り組み方や種目によって熱量に大きな差がある。
2 今年度の体力向上目標（一つにしほる）
令和7年度の新潟市・学習意識調査で、「保健体育の体を動かして遊んだり、運動スポーツをしたりしている」で肯定的な生徒が80%以上になる。
3 体力づくりの取組概要
(1) 体力づくりに関する指導や計画の工夫・変更点など (カリキュラムマネジメントの視点を含む) ○ 交流を通して運動に親しむ場の設定（外遊びの推奨・球技大会等） ○ 自分の時間を自分で考えて使うことができるよう、タイムマネジメントの指導、強化週間（年2回）を実施する。 ○ 昼休みに用具を開放し、生徒へ運動の啓発を行う。 ○ 健康教室や講習会、健康週間を年間計画に位置付けて実施する。 ○ 小中学校で連携し、体力課題を把握して対策を実行する。 ○ 学校保健委員会を年に1回開催し、校区の児童生徒の健康状態や生活習慣について実態を把握すると共に課題解決に向けた取組を共有する。
(2) <u>運動の苦手な児童生徒に対する体育、保健体育の授業の工夫・改善</u> ○ 運動やスポーツの楽しさを感じる授業の実践 ○ 「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業の実践 ○ 基本的技能の習得・運動時間の確保 ○ 何ができるようになったかを明確にする。 ○ ICT端末を活用した「アウトプット」を意識した授業づくり ○ 各種の運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わえるようにする。 ○ 体育ならではの見合いや教え合い、励まし合いを活発にする。

資料 4

子供の運動習慣形成と体力向上に向けた事例紹介
～ 学校における体育・保健体育授業以外の取組事例 ～

令和5年 3月



はじめに

スポーツ庁が毎年実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、近年児童生徒の体力が低下傾向にあり、令和4年度の調査では体力合計点が過去最低の記録となりました。様々な原因が考えられる中、今後は、学校、家庭及び地域が連携し、児童生徒の運動習慣を改善・促進することが一層求められます。

スポーツ庁においては、令和4年12月に調査結果を発表した際、今後の取組として学校、家庭及び地域における運動機会を確保するための5つの対策パッケージを示しました。

その中で、授業以外の児童生徒の運動時間を増やすことを掲げていましたが、この度、体育・保健体育授業以外の取組事例を整理しましたので、今後、各学校において取り組む際の一助となれば幸いです。

また、教育委員会におかれでは、子供の運動習慣形成と体力向上に向けた施策を積極的に推進していただくとともに、各学校における取組を支援していただきますようお願いします。

スポーツ庁政策課 企画調整室

【本件問合せ先】

スポーツ庁政策課企画調整室
電話 03-6734-2674（直通）
電子メール skikaku@mext.go.jp

● 目 次	_____	2
● 取組事例	_____	3～9
1 「児童生徒の主体性を引き出す工夫」	_____	3
2 「家庭・地域等との連携」	_____	4
3 「場の確保・整備、用具等の工夫」	_____	5
4 「休み時間・放課後等の時間の工夫」	_____	6～7
5 「時間割の工夫」	_____	8～9

【参考資料】

- ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書 取組事例」
平成29年度～令和3年度　スポーツ庁



https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/kodomo/zencyo/1368222.htm

- ・「子どもの体力向上のための取組ハンドブック」
平成24年3月　文部科学省



https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kodomo/zencyo/1321132.htm

1 「児童生徒の主体性を引き出す工夫」

①『○○ウィークの実施』

- ・鉄棒ウィーク、外遊びウィーク等の設定（図1）

②『休み時間の活動の改善』

- ・曜日を決めて学年ごとに校庭を広く使用するための提案・改善、各種ボールの貸し出しによる遊びの拡充（図2）

③『異学年の交流』

- ・運動委員会が遊び方を紹介し、低学年の児童と遊ぶ取組（図3）

④『代表委員会によるイベント』

- ・1・6年生、3・5年生、2・4年生がペア学年となり、上級生が運動遊びの内容を決定、イベントの運営・実施

⑤『修了証の授与』

- ・固定遊具で引き出したい動きを紹介し、遊具でたくさん遊んだ児童には修了証を授与

⑥『月末の取組』

- ・月末の3日間、全校で体を動かす取組を学年委員会が企画・実施



(図1)



(図2)



(図3)

2 「家庭・地域等との連携」

①『家庭に向けた運動の紹介・啓発』

- ・家庭でできる運動取組カードの配付
- ・学校独自で体操を作成し、家庭向けに Web 配信
- ・学校での体力向上に関する取組を掲載した「体育だより」を作成し、家庭向けに配布するとともに学校ホームページにも掲載(図 1)
- ・運動への啓発を目的とした長期休業中のポスター作成(図 2)
- ・運動の日常化、習慣化に向けた取組シートを長期休業中に配付、優秀者の取組を掲示・表彰
- ・部活動の競技の特性に合わせた栄養指導を保護者同席で行い、家庭での食事の在り方の啓発

②『地域と連携した取組』

- ・校庭の管理を学校から PTA に引き継ぐことによる、児童が長時間遊べる場所の確保(図 3)
- ・部活動における外部指導者の活用



(図 1)



(図 2)



(図 3)



3 「場の確保・整備、用具等の工夫」

①『校舎内・外』

- ・校門から昇降口までの通路に輪やミニハードルを並べ、ステップや飛び越える運動をしながら登校（図1）
- ・廊下に自由に利用・測定ができるよう握力計を設置し、名前を添えて付箋に記録を記入してランキングを掲示
- ・握力向上の秘訣の作成・掲示、ペットボトルを活用した握力向上に向けた用具制作（図2）

②『運動場』

- ・二重跳び練習用にジャンピングボード、ラダー等の設置（図3）
- ・投運動練習用に校舎の上方に張った紐に沿って筒を投げ上げる場の設置（図4）
- ・ジャンプ練習用にジャンプタッチの場の設置
- ・低学年は、フープや缶等を使った遊びの場の設定、高学年は、「投げる」「走る」「蹴る」などの遊びの場の設定

③『体育館』

- ・壁面にボルダリングを設置（図5）
- ・ラインテープによる立ち幅とびや反復横とび等の場の設置



(図1)



(図2)



(図3)



(図4)



(図5)



4 「休み時間・放課後等の時間の工夫」

①『業間の取組（多様な運動遊びの推奨）』

- ・運動委員会が準備、「ケンステップ」「連續ジャンプ」「ジャングルジムのぼりおり」「立ち幅とび」「鉄棒」「登り棒」「雲梯」「ラダー」で、自分の好きな場所から開始（図1、2）
- ・担任による動き説明、運動委員会や上級生の模範演技の実施（図3）

②『部活動の工夫』（図4）

- ・部活動として、個々の課題や目標に合わせて目的をもって活動できる「体力アップクラブ」の創部
(兼部可、卒業まで継続可、原則大会等の参加は無し)

《時間の工夫》

★活動時間は、週2回、朝7時30分から8時15分までの45分間（放課後の活動は行わない）

《設定の工夫》

★長期休業中は、生徒が多数参加できる日を水泳活動日として設定、郊外の自然広場等で運動する日を設定

★希望者を募り市内の駅伝大会に参加

《内容の工夫》

★個人の目標設定として、保健体育の「体つくり運動」で学習した体の動きを高める運動をもとに、回数、頻度、強度などを活動計画表として作成

★補強運動やなわ跳び、ストレッチなどを始め、バドミントンやテニス、バスケットボール、サッカーなどの球技等を実施



(図 1)



(図 2)



(図 3)

正門前で坂道ランニング



動き合ってみんなで腹筋運動



自分のペースで校舎周りランニング



立地を生かした階段ランニング



体幹を鍛える運動



長期休業中にはプールでの運動も企画



(図 4)

5 「時間割の工夫」

①『教職員の働き方改革や、教職員・児童生徒を含めた学校全体での取り組みやすさ等を考えた時間割の工夫』

(考え方の例)

- 休憩時間ではなく勤務時間内の教育活動として位置付ける。
- 比較的短時間で継続的に取り組む。
- 特に中学校では、保健体育科の教員の知識・経験を活用しつつ、全教職員が関わり学校全体の取組として実施する。

学校における体育授業外の体力向上の取組例

【小学校の時間割の例】 教師の昼休憩の時間を分割する案

勤務時間	実施日（週3日）		未実施日（週2日）	
	8:05~8:15	朝の会	8:05~8:15	朝の会
9:00	8:20~9:05	1時間目	8:20~9:05	1時間目
	9:05~9:15	休み時間	9:05~9:15	休み時間
10:00	9:15~10:00	2時間目	9:15~10:00	2時間目
	10:00~10:20	休み時間（業務の時間）	10:00~10:20	休み時間（業務の時間）
11:00	10:20~11:05	3時間目	10:20~11:05	3時間目
	11:05~11:15	休み時間	11:05~11:15	休み時間
12:00	11:15~12:00	4時間目	11:15~12:00	4時間目
	12:00~12:40	給食	12:00~12:40	給食
13:00	12:40~13:05	昼休み (教職員の休憩時間①)	12:40~13:05	昼休み (教職員の休憩時間①)
	13:10~13:25	清掃	13:10~13:25	清掃
14:00	13:35~14:20	5時間目	13:35~14:20	5時間目
	14:20~14:30	休み時間	14:20~14:30	休み時間
15:00	14:30~15:15	6時間目	14:30~15:15	6時間目
	15:25~15:35	帰りの会	15:25~15:35	帰りの会
16:00	15:45~16:00	体力向上の取組	15:35~15:55	(教職員の休憩時間②)
	16:00~16:20	(教職員の休憩時間②)	15:35~15:55	(教職員の休憩時間②)
16:35				

【教職員の勤務時間は、昼休みを除き7時間45分（上表では8時05分～16時35分）】

【中学校の時間割の例】 部活動の時間の一部を体力向上に振り替える案						
勤務時間	実施日（週3日）		未実施日（週2日）			
8:05	8:05~8:15	朝の会	8:05~8:15	朝の会		
	8:20~9:10	1時間目	8:20~9:10	1時間目		
9:00	9:10~9:20	休み時間	9:10~9:20	休み時間		
	9:20~10:10	2時間目	9:20~10:10	2時間目		
10:00	10:10~10:20	休み時間	10:10~10:20	休み時間		
	10:20~11:10	3時間目	10:20~11:10	3時間目		
11:00	11:10~11:20	休み時間	11:10~11:20	休み時間		
	11:20~12:10	4時間目	11:20~12:10	4時間目		
12:00	12:10~12:50	給食	12:10~12:50	給食		
	12:50~13:35	昼休み (教職員の休憩時間①)	12:50~13:35	昼休み (教職員の休憩時間①)		
13:00	13:40~13:55	清掃	13:40~13:55	清掃		
	14:00~14:50	5時間目	14:00~14:50	5時間目		
14:00	14:50~15:00	休み時間	14:50~15:00	休み時間		
	15:00~15:50	6時間目	15:00~15:50	6時間目		
15:00	15:55~16:05	帰りの会	15:55~16:05	帰りの会		
	16:15~16:30	体力向上の取組	(部活動) 16:05~			
(部活動) 16:35~						
【教職員の勤務時間は、昼休みを除き7時間45分（上表では8時05分～16時35分）】						

- これらの時間割はあくまで一例であり、学校の実情に応じて時間割の組み方は多様です。

②『その他の例』

- ・昼休み（45分）と業間時間（15分）を接続し、60分の活動時間を確保する。
- ・一週間に1～2日程度、帰りの会と合わせて20～25分の教室等ができる運動の活動時間を確保する。
- ・一週間に1～2日程度、最終授業時間を体育・保健体育授業に設定し、授業終了後そのまま体育館や運動場で帰りの会と合わせて20～25分の活動時間を確保する。